

〔研究紹介〕

ゼミ紹介

阪口 祐介*

本ゼミを一言でまとめると、次のような内容になる。

社会調査データの分析手法を学びながら、現代日本における様々な社会現象・社会問題の実態や背景について分析・考察・議論し、学生は自身の関心のあるテーマで卒業論文を作成する。

本学部のなかでのゼミの特色としては、第一に、社会現象・文化現象・社会問題を分析対象とする社会学的研究を行うことである。第二に、社会調査データの分析手法を学び、調査を実施し、データ分析から社会を読み解くことである。

私が専門とする社会学の分野は、「格差と不平等の社会学（社会階層論）」「リスク社会論」「社会意識論」である。学生が研究対象にできるテーマを例示すると、「教育機会の格差」「学歴社会」「人間関係」「就活」「若年非正規雇用」「ブラック企業（バイト）」「職業キャリア」「結婚と家族」「女性のライフコース」「出産と子育て」「ワークライフバランス」「ジェンダー格差」「高齢者の生活」「労働観」「幸福」「原発世論」「新型コロナによる社会変容」「治安悪化認知」「国際比較からみる日本社会」などである。

3年次の「専門演習」では、次の活動を行う。

- ① 文献購読を通じて、社会学や社会調査法、学術論文の構造について学ぶ。「格差と不平等の社会学」について解説した拙稿（『『格差と不平等』にどう向き合うか？』）を読み、社会階層、職業の世代間移動、教育機会の階層間格差、社会調査データの構造、データ分析法について、学生たちは疑問点や感想をあげながら議論する。学術論文を読み、問題意識、先行研究、分析課題、仮説、分析、議論といった論文の構造を学ぶ。ウェブ調査報告書や卒業論文集に掲載されている学生の論文を読む。
- ② 研究計画を立て、報告する。先行研究の収集方法、まとめ方、仮説の立て方、質問の作り方などについて解説し、各自が関心のあるテーマについて研究計画を作成・報告する。
- ③ 社会調査データの分析法についてパソコンを使って実践的に学ぶ。全国ランダムサンプリング調査や過去にゼミで実施したウェブ調査のデータを分析しながら、分析手法のスキルを習得する。データの構造、概念の操作化、仮説の検証、度数分布、クロス集計、相関分析、平均値の比較、重回帰分析、ロジスティック回帰分析などについて学ぶ。
- ④ ウェブ調査を実施する。各自の研究計画をもとに、共同で調査票を作成する。調査の実施と回収は調査会社に依頼し、20～60歳を対象とした1200程度のサンプルを回収する。

*関西大学総合情報学部

4年次の「卒業研究」では、次の活動を行う。

- ① 回収されたウェブ調査データを分析し、研究報告を行う。各自、論文を作成し、ウェブ調査報告書を完成させる。
- ② 卒業研究を進める。卒業研究計画について報告し、卒業論文を完成させる。卒論の形態としては、ウェブ調査を発展させた研究、全国ランダムサンプリング調査のデータの2次分析（JGSSやSSM調査など）を行う研究、インタビュー調査を行う研究、ウェブ調査とインタビュー調査を組み合わせた研究などがある。インタビュー調査といった質的調査の方法や、アドバンスな統計分析については適宜、説明を行う。

現時点で卒業したのは2023年卒の学生である。その卒業研究のテーマと形式を示す。

- ・読書ジャンルの規定要因：ウェブ調査
- ・子どもの教育達成に影響する家庭要因：ウェブ調査
- ・所得再分配政策への態度の規定要因：ウェブ調査とJGSS
- ・日本における排外意識の規定要因：JGSS
- ・男女の幸福度格差を生みだすもの：ウェブ調査
- ・自殺願望の規定要因：ウェブ調査と官庁統計
- ・犬を飼うことの身体的・精神的影響：ウェブ調査とJGSS
- ・人々がキャラクターに求めるもの：インタビュー調査
- ・音楽聴取ジャンルと友人関係：ウェブ調査とインタビュー調査
- ・流行現象と価値観の関係性：ウェブ調査
- ・BLを読むこととLGBTQへの態度の関係性：ウェブ調査とインタビュー調査

2年間のゼミをふりかえった学生の感想は次のようなものである（一部修正）。

- ・自分自身にとって身近な存在でありながらも、どこから始まりどのように広がっているのかが不明瞭な現象に対して向き合い研究することができ、新たな発見や見方ができ楽しい。
- ・自分の興味のあることについて研究してきたが、先行研究やウェブ調査・インタビュー調査の結果を分析・考察したことで、より研究内容に興味を持たたと感じる。
- ・自分自身が興味ある事例などを模索しながらやりたいように自由に出来た点良かったと思うし、自分の研究に対して、同じ学生目線からのアドバイスなどをもらうことで卒業論文をより良いものにできた。

本ゼミは2022年度にスタートし、その進め方はまだ模索中である。学生の多くが、自身にとって関心のあるテーマに向き合い、社会調査データの分析を通じて様々な発見をする楽しさを味わえるゼミにしていきたい。